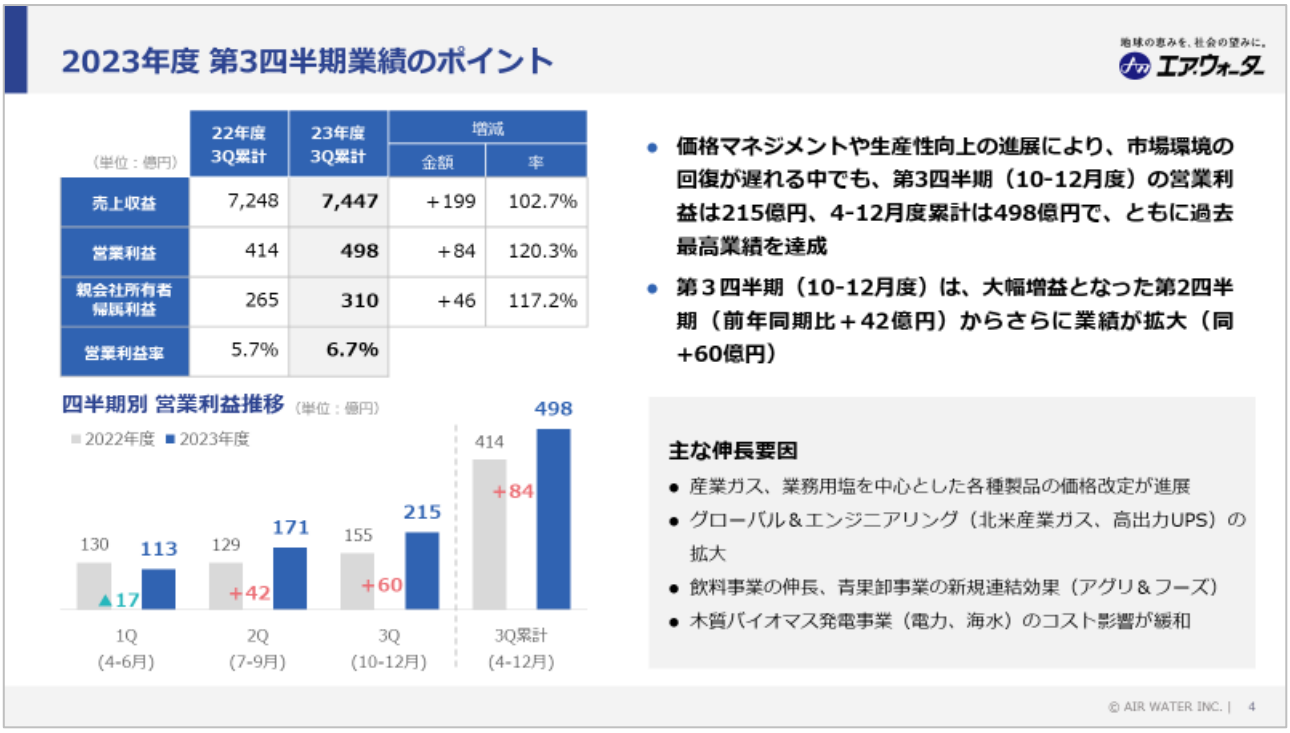
エア・ウォーター株式会社
2023 年度　第 3 四半期決算説明スクリプト

説明者
代表取締役社長・ＣＯＯ　　松林　良祐
理事　広報・ＩＲ推進室長　中井　康市

2024 年 2 月 9 日



説明者：代表取締役社長・ＣＯＯ　松林　良祐

社長の松林でございます。本日はご多忙のところ、当社の決算説明会にご参加いただきまして、ありがとうございます。早速ですが、本決算の全体概況について、説明させていただきます。

第 3 四半期業績は、売上収益が 7,447 億円（前年同期比 102.7%）、営業利益が 498 億円（同 120.3%）、親会社所有者帰属利益が 310 億円（同 117.2%）という結果になっております。

資料の下段に、四半期別の営業利益のグラフを付けておりますが、第 3 四半期は、前年同期より 60 億円増益の 215 億円となり、前年同期に対し 42 億円の増益となった第 2 四半期から、さらに増益幅を拡大した結果となりました。この第 3 四半期単体での営業利益 215 億円、また、第 3 四半期累計での 498 億円は、当社では過去最高の業績となります。

全体としては、半導体市況の低迷が継続し、産業ガスの需要も前年同期を下回るなど、決して事業環境が良いという状況ではございませんが、昨年度から全社を挙げて取り組んでおります「価格マネジメント」の徹底、また並行して取り組んでおります、生産性向上や事業運営の効率化といった施策が順調に進展し、収益力の大幅な改善に繋がったものであります。

こうした収益力の強化に向けた取り組みは、全ての事業領域で行っておりますが、このたびの業績拡大では、特に、産業ガスや業務用塩の分野でその効果が大きく発現いたしました。

また、収益力の強化に加え、今後の成長領域として、積極的なＭ＆Ａの推進を通じて事業拡大を加速している北米での産業ガスおよび関連機器事業が順調に進展したほか、高出力 UPS 事業も東南アジアでの大型データセンター需要を取り込み、業績が拡大しております。

さらに、農業・食品事業でも、飲料分野や青果物の小売分野を中心に、コロナ収束後の回復需要を着実に捉え、成長に繋げることができました。

前年度の業績に大きな影響を与えた木質バイオマス発電事業につきましては、発電燃料となるバイオマス（ＰＫＳや木質ペレット）の海上輸送コストが段階的に低下したことに加え、港湾施設での滞船緩和策が進んだことで、業績が大きく改善しております。

事業年度末に向け、残すところ 1.5 カ月余りではありますが、引き続き、エア・ウォーターグループ全社を挙げて、価格マネジメントや生産性の向上などの収益改善策、そして、海外をはじめとした成長領域での事業拡大に徹底して取り組むことによって、第 3 四半期の業績拡大基調をさらに高め、次年度に繋げてまいりたいと考えています。

以上をもちまして、当第 3 四半期決算の概況についての説明を終わります。

補足資料

令和6年能登半島地震について

地球の恵みを、社会の望みに。 エアウォーター

被害状況について

当社グループにおける人的被害はありません。
サプライチェーンにおいても、調達や生産スケジュールに重大な影響を与える事象は発生しておりません。

物的被害については、孫会社であるクロス工業㈱の能登工場（石川県珠洲市）で、建物や設備の一部に被害が発生し操業を停止していましたが、1月29日より、一部生産を再開しました。
当期の業績に及ぼす影響は順次精査中ですが、現時点では、復旧にかかる費用や使用できない原料・資材の評価減など合計で約50百万円の特別損失が発生する見込みです。

※連結子会社である川本産業㈱の子会社で、包帯などを製造

支援について

- 日本赤十字社を通じて1,000万円を寄付
- カセットコンロ用ボンベ2,000本を無償提供
- グループ会社 エア・ウォーター防災㈱が設計・製造した「医療コンテナ」を設置
- グループ会社 ゴールドパック㈱より、ミネラルウォーターなどの飲料約1,000本を無償提供
- グループ会社 ㈱歯愛メディカルより、歯ブラシ、除菌ウェットティッシュ、洗口液などの物資を無償提供

引き続き、当社グループ全体で被災地を支援してまいります。

被災地に設置された医療コンテナ

© AIR WATER INC.| 31

続きまして、この場をお借りし、投資家の皆様のご関心が高いと思われる事項について、少しお話させていただきます。31 ページをご覧ください。

はじめに、1 月 1 日に発生した能登半島地震についてです。
今回の地震で被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。
当社の状況といたしましては、当社グループにおける人的被害はなく、サプライチェーンの面でも、大きな影響を受ける事象は発生しませんでした。物的被害としては、当社グループの川本産業㈱の子会社、クロス工業㈱の能登工場が被災しました。同社では、包帯やレース生地などを生産しており、既に生産を一部再開しておりますが、製品在庫の毀損などで約 5,000 万円の特別損失が発生する見込みです。

被災地への支援といたしましては、日本赤十字社を通じて 1,000 万円を寄付させていただきました。石川県に拠点のある㈱歯愛メディカルから歯ブラシや洗口液などを提供したほか、他のグループ会社からも飲料やカセットコンロ用のボンベなどを無償提供しました。

資料の写真は、輪島市の門前保健センター前に設置された医療コンテナです。

これはエア・ウォーター防災が設計・製作し、愛知県の大学病院に納入したもので、コンテナには医療機器が搭載されており、診療機能を有しているものです。地震発生後、災害派遣医療チーム・ＤＭＡＴの依頼を受け、エア・ウォーターグループの手配で被災地へ輸送し、地震発生７日目から現地で使用されています。

今後も当社グループ全体で被災地のニーズに即した支援を続けていきたいと考えております。

補足資料

TOPICS　半導体向け稀少ガス（ヘリウム・アルゴン）の安定供給に向けて

地球の恵みを、社会の望みに。 エアウォーター

ヘリウム・アルゴン 需給ひっ迫の背景	・国内で進行する大手半導体メーカー各社の生産増強 ・世界的なヘリウム需要の拡大と供給側の不確定要素 ・高炉再編によるアルゴンソースの減少

ヘリウム
主要用途：半導体製造の冷却用ガスやリークチェック

■ **供給能力拡大に向けた設備投資を計画**
経済安全保障促進法に基づく「供給確保計画」に認定。
半導体向けヘリウムの安定供給にかかる投資計画に対して、経済産業省が助成金を交付（投資額の1/3が上限）
ご参考：ニュースリリース（2023年12月6日）

上記の設備投資に加え、海外の関連会社との連携によって、グローバルでのヘリウム事業拡大に取り組む。

日本ヘリウム㈱センター工場

アルゴン
主要用途：シリコンウエハの製造工程における雰囲気ガス

■ **地域的に偏在するソースを有効活用し、需要構造の変化に合わせた全体最適化を推進**
① 半導体工場向け大型ASUでアルゴンを製造
今後新増設するASUで国内３カ所を想定
② 既存生産設備（室蘭）の増強と東北地区における中継基地の新設
※室蘭における生産能力を1.4倍に

アルゴン貯槽タンク

建設中の北上ガスセンター

© AIR WATER INC.| 32

32 ページをご覧ください。国内でのヘリウムおよびアルゴンの安定供給に向けた取り組みについてお話します。

これら２つのガスは、半導体製造における需要が高まっている一方、ヘリウムは主要プラントの老朽化トラブルやロシア・ウクライナ戦争の影響で供給不安が広がっております。また、アルゴンにつきましては、国内製鉄所における高炉再編により大型アルゴンソースが減少傾向にあり、構造的に需給がタイト化する状況が見込まれています。

当社グループでは、こうした状況を踏まえ、ヘリウムとアルゴンの安定供給に向けた体制強化を進めています。

まず、ヘリウムに関しては、ヘリウム輸送の専用コンテナやトレーラーを先行的に配備し、国内の流通在庫を増やすことで、現行の約２倍に供給能力に高めてまいります。今後、数年かけて総額 30 億円程度の投資を実行いたします。

また、本件投資は、経済安全保障促進法に基づき、経済産業省から「供給確保計画」の認定を受けており、投資額の 1/3 が助成金で賄われる予定です。

ヘリウムは、天然ガスの副生ガスとして採取される希少な天然資源であり、アメリカ、中東のカタール、ロシアなど採取できる場所が世界的に限定されるガスです。今後もいくつかの開発計画はあるものの、計画通り稼働するかは非常に不透明な状況です。

そのため、ヘリウムの供給については、海外からのサプライチェーンを安定的に運営できるかどうか、ということが非常に重要になります。

当社グループでは、ヘリウムの調達先を複数化することで、国内に安定供給するとともに、その一環として、2023 年 9 月にアメリカでヘリウム事業を展開するアメリカン・ガス・プロダクツ社をグループ化しており、事業拡大とともに調達力の強化を進めてまいります。

次に、アルゴンに関してご説明します。
アルゴンは、空気中に約 0.9%しか含まれない希少性の高いガスであるため、製造効率の観点から、主に、製鉄所に設置している大型の深冷空気分離装置で製造を行っています。

国内では高炉製鉄所の再編が進み、アルゴン製造のソースが減少する一方で、シリコンウェハーをはじめとした半導体関連でのアルゴン需要は今後、益々拡大していくことが見込まれています。

そのため、当社では、すでに製鉄所に設置している深冷空気分離装置でのアルゴン製造能力の増強を図る一方、今後、新たに建設する大型半導体工場向けの深冷空気分離装置でもアルゴンを併産製造することによって、産業構造の変化に対応していきます。

具体的には、既存の製鉄所向け深冷空気分離装置では、2023 年 6 月に、室蘭地区のアルゴン製造能力を 1.4 倍に増強するとともに、東北地区に中継基地を新たに設置しました。北海道で製造したアルゴンを活用して東北エリアの需要を賄う一方で、それまで茨城県の鹿嶋地区で製造し、東北に遠距離輸送していたアルゴンを関東の需要先に振り向けることで、東日本地域におけるアルゴン供給の全体最適化を図っています。

そして、現在、岩手県の北上地区で建設を進めている大型半導体工場向けの深冷空気分離装置については、アルゴンを製造できる仕様にしているほか、今後、九州や中国地区で大型半導体工場向けに設置する深冷空気分離装置でも、アルゴンを製造することを計画しています。これにより、旺盛な半導体需要に対して、遠距離輸送を必要としないアルゴン供給を実現するとともに、半導体以外のユーザーにも持続的に安定供給ができる体制を構築してまいります。

只今、ご説明した通り、今後は、ヘリウム・アルゴンともに、安定供給を継続できる体制構築が他社との差別化に繋がり、競争力の源泉になっていくと考えております。

あと、もう一点、追加でのご説明になりますが、昨日 2 月 8 日に 2024 年 4 月から適用する産業ガス製品の価格改定を発表しております。昨年に引き続いての、さらなる価格改定となります。物流コストの上昇のほか、希少なガス種の安定供給に向け、一定程度のコストをかけながら、調達交渉や設備投資を進めていますので、お客様にはこうした事情を丁寧にご説明することで、理解を得てまいります。

以上をもちまして、私からの説明を終わります。

2023年度　第3四半期業績

連結損益計算書

地球の恵みを、社会の望みに。
エアウォータ

（単位：億円）

	22年度3Q	23年度3Q	増減 金額	増減 率
売上収益	7,248	**7,447**	＋199	102.7％
売上原価	▲5,778	**▲5,838**	▲60	
売上総利益	1,470	**1,609**	＋139	109.4％
販売費・一般管理費	▲1,095	**▲1,154**	▲58	
その他の収益・費用	22	**24**	＋2	
持分法による投資利益	18	**19**	＋1	
営業利益	414	**498**	＋84	120.3％
金融収益・費用	▲4	**▲5**	▲2	
税引前四半期利益	411	**493**	＋82	120.0％
法人所得税費用	▲144	**▲169**	▲25	
非継続事業からの四半期利益	0	**0**	＋0	
四半期利益	267	**324**	＋57	121.4％
親会社の所有者に帰属する利益	265	**310**	＋46	117.2％
非支配持分	2	**14**	＋12	

営業利益率	5.7%	**6.7%**
ＲＯＥ ※1	6.5%	**7.0%**
基本的１株当たり四半期利益 ※2	116.78円	**136.32円**

※1 「親会社の所有者に帰属する四半期利益」
÷「親会社の所有者に帰属する持分（期首・四半期末の平均）」
※2 基本的１株当たり四半期利益は
期中平均発行株式数により算出しています。

© AIR WATER INC.| 5

説明者：理事　広報・ＩＲ推進室長　中井　康市

続きまして、広報・IR 推進室の中井から本決算における部門の概況などについて、ご説明いたします。

説明資料の５ページをご覧ください。
全社を通じた価格改定や、海外事業の拡大により、売上収益は 7,447 億円と、前年同期に比べて 199 億円増加しました。
一方、これに対し、売上原価については 60 億円の増加。
この結果、売上総利益は 139 億円増加し、前年同期比 109.4%に拡大しました。

販売費・一般管理費は、新規連結や賃上げによる人件費の増加などにより 58 億円の増加、その他の収益は前年同期並みで 2 億円のプラスとなりました。
これらの結果、営業利益は 498 億円となり、前年同期に比べて 84 億円の増加となりました。
金融収支や法人所得税等を差し引いた四半期利益は 324 億円。
親会社所有者帰属利益は、310 億円となり、前年同期に比べて 46 億円の増加となりました。

営業利益率は前年同期の 5.7%から 1 ポイント増加し、6.7%となっています。

2023年度　第3四半期業績

セグメント別 売上収益

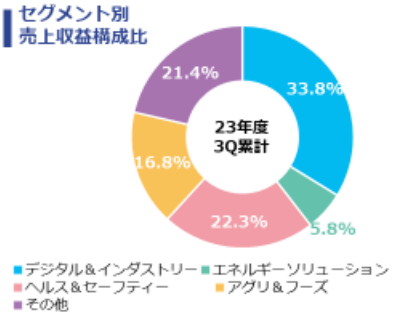
地球の恵みを、社会の望みに。 エアウォータ

（単位：億円）

グループ	22年度3Q	23年度3Q	増減	
			金額	率
デジタル＆インダストリー	2,464	**2,516**	＋52	102.1%
エネルギーソリューション	453	**429**	▲24	94.7%
ヘルス＆セーフティー	1,690	**1,657**	▲32	98.1%
アグリ＆フーズ	1,160	**1,250**	＋90	107.7%
その他	1,481	**1,595**	＋114	107.7%
合計	7,248	**7,447**	＋199	102.7%

※当第1四半期より、「デジタル＆インダストリー」に区分していた国内のエンジニアリング事業および海外・エンジニアリング（インド産業ガス等）事業を「その他の事業」に、「エネルギーソリューション」に区分していた炭酸ガス・水素事業を「デジタル＆インダストリー」に移しました。それに伴い、前年同期の数値も、変更後のセグメント区分に組み替えて表示しています。

セグメント別 売上収益構成比



（単位：億円）

© AIR WATER INC. | 6

説明資料の６ページをご覧ください。まず、売上収益です。

ご覧の通り、デジタル＆インダストリーが 102.1%、アグリ&フーズが 107.7%、その他セグメントが 107.7%の増収となりました。

2023年度　第3四半期業績

セグメント別 営業利益

地球の恵みを、社会の望みに。 エアウォータ

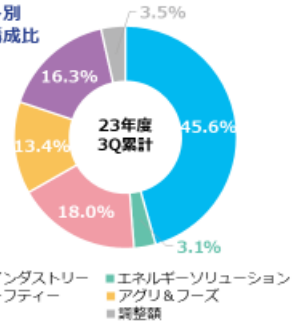
（単位：億円）

グループ	22年度 3Q累計	23年度 3Q累計	増減	
			金額	率
デジタル＆インダストリー	188	**227**	＋39	120.6%
エネルギーソリューション	21	**16**	▲6	73.9%
ヘルス＆セーフティー	97	**90**	▲7	92.4%
アグリ＆フーズ	52	**67**	＋15	128.1%
その他	36	**81**	＋45	223.4%
調整額	19	**18**	▲2	91.7%
合計	414	**498**	＋84	120.3%

※調整額：セグメント間取引消去および各セグメントに配分していない当社本社部門の損益

※当第1四半期より、「デジタル＆インダストリー」に区分していた国内のエンジニアリング事業および海外・エンジニアリング（インド産業ガス等）事業を「その他の事業」に、「エネルギーソリューション」に区分していた炭酸ガス・水素事業を「デジタル＆インダストリー」に移しました。それに伴い、前年同期の数値も、変更後のセグメント区分に組み替えて表示しています。

セグメント別 営業利益構成比

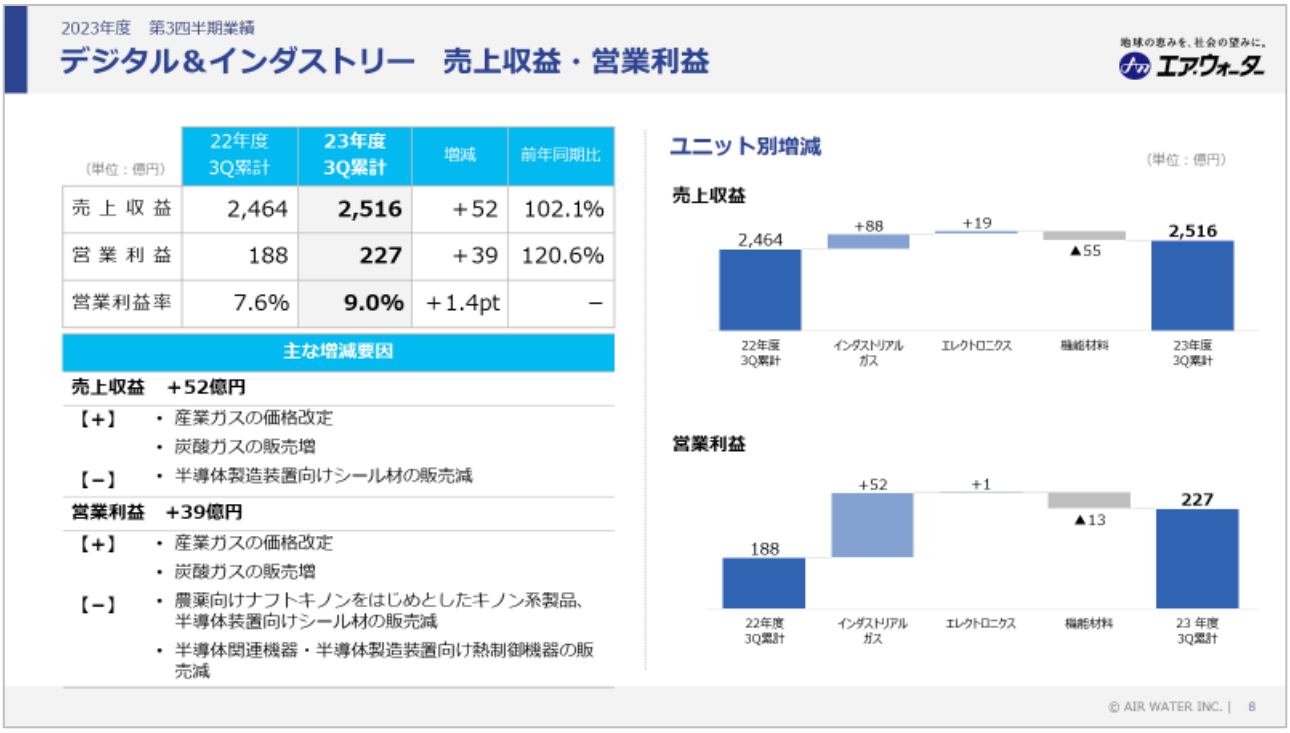


（単位：億円）

© AIR WATER INC. | 7

次の７ページをご覧ください。

営業利益につきましては、デジタル&インダストリーが 120.6%、アグリ&フーズが 128.1%、また、その他セグメントが 223.4%と大幅な増益となりました。



続きまして、セグメント別の売上収益と営業利益をご説明いたします。
資料の８ページをご覧ください。デジタル＆インダストリーの業績です。

売上収益は 2,516 億円で 52 億円の増収、営業利益は 227 億円で 39 億円の大幅な増益となりました。

産業ガスの価格改定効果が大きく発現したほか、炭酸ガスの販売が回復したことで、インダストリアルガス事業の営業利益が大きく拡大しました。

エレクトロニクス事業については、半導体製造装置向けの熱制御機器やガス精製装置の販売が減少しましたが、大手半導体工場向けのオンサイトガス供給が前年並みを維持するとともに、新たな半導体工場の立ち上げに伴って、特殊ケミカル供給機器や関連工事が拡大、また、商社機能を持つグループ会社のエア・ウォーターマテリアル㈱が行っております、大手半導体工場に向けた高純度薬品や塗布材料の販売も堅調に推移した結果、その影響を補いました。

一方、機能材料事業は、半導体市況の低迷を受け、半導体製造装置向けのシール材（O リング）や精密研磨パッドなどの材料販売が縮小するとともに、農薬向けのナフトキノンの販売が、顧客における在庫調整の影響を受けたことで低調に推移し、厳しい状況となりました。

2023年度　第3四半期業績

エネルギーソリューション　売上収益・営業利益

地球の恵みを、社会の望みに。 エア・ウォーター

（単位：億円）	22年度 3Q累計	23年度 3Q累計	増減	前年同期比
売上収益	453	**429**	▲24	94.7%
営業利益	21	**16**	▲6	73.9%
営業利益率	4.7%	**3.7%**	▲1.0pt	－

主な増減要因

売上収益　▲24億円

【－】・市況連動によるＬＰガスの販売価格下落

【＋】・工業用ＬＰガスの数量増

営業利益　▲6億円

【－】・市況変動に伴うＬＰガスの在庫評価影響

ユニット別増減

（単位：億円）

売上収益

営業利益

© AIR WATER INC.

資料９ページをご覧ください。エネルギーソリューションです。

売上収益は 429 億円で 24 億円の減収、営業利益は 16 億円で 6 億円の減益となりました。

低・脱炭素需要が高まる中、燃料転換を推進したことで、工業用ＬＰガスの販売数量が増加、しかしながら、第 1 四半期を中心に、ＬＰガスの販売単価が輸入価格であるＣＰ価格に連動して下落したため、売上収益が減少するとともに、利益面でも在庫評価による影響を受けました。
なお、ＣＰ価格は第 3 四半期より上昇基調に転じましたが、上期の影響を補うまでには至りませんでした。

2023年度　第3四半期業績

ヘルス＆セーフティー　売上収益・営業利益

地球の恵みを、社会の望みに。 エア・ウォーター

（単位：億円）	22年度 3Q累計	23年度 3Q累計	増減	前年同期比
売上収益	1,690	**1,657**	▲32	98.1%
営業利益	97	**90**	▲7	92.4%
営業利益率	5.7%	**5.4%**	▲0.3pt	－

主な増減要因

売上収益　▲32億円

【－】・新型コロナ関連需要（在宅酸素濃縮装置・衛生材料等の感染管理製品）の減少

・医療サービス（ＳＰＤ）の受託減

【＋】・データセンター向け防災工事増

営業利益　▲7億円

【－】・新型コロナ関連需要（在宅酸素濃縮装置・衛生材料等の感染管理製品）の減少

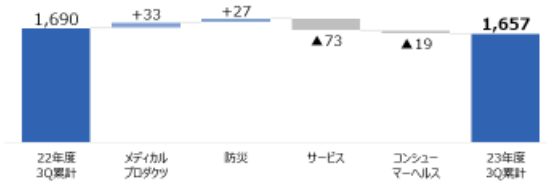
・医療サービス（ＳＰＤ）の受託減

【＋】・化粧品（液体充填品）の受託増

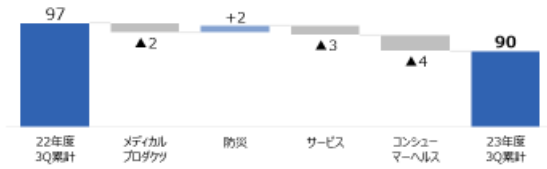
ユニット別増減

（単位：億円）

売上収益



営業利益



© AIR WATER INC.

10 ページをご覧ください。ヘルス＆セーフティーです。

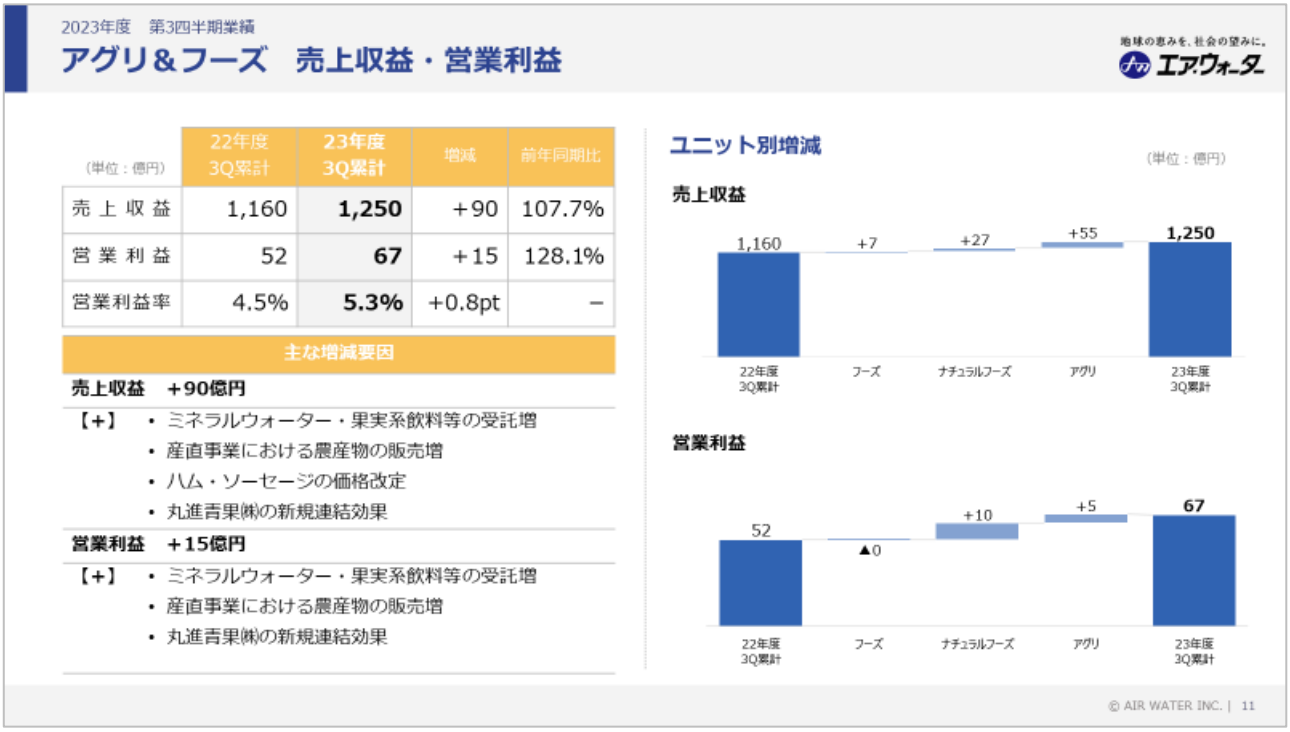
売上収益は 1,657 億円で 32 億円の減収、営業利益は 90 億円で 7 億円の減益となりました。

メディカルプロダクツ事業は、医療ガスの価格改定の取り組みが順調に進展したほか、一酸化窒素吸入療法（心臓手術の周術期における肺高血圧治療に利用される）の症例数も順調に増加しました。しかしながら、利益面では、新型コロナが 5 類に移行したことを背景に、酸素濃縮装置の自治体向けリース契約が終了した影響を受けました。

防災事業は、配管等の工事部材費や人件費上昇の影響を受けましたが、病院のリニューアル工事やデータセンター向けのガス消火設備が拡大したことで、堅調に推移しました。また、シンガポールの病院設備工事も回復基調で推移しました。

サービス事業は、ＳＰＤ（病院物品物流管理）事業を中心に、新規受託病院の獲得が進みましたが、新規の業務立ち上げにかかるコストが発生したほか、一部の大型病院との受託契約が終了した影響を受けました。

コンシューマーヘルス事業は、エアゾール分野において、注力している化粧品の受託製造が拡大するとともに、コスト上昇に対応した価格改定も順調に進展しました。しかしながら、衛生材料分野において、マスクなどの感染管理製品の需要が減少したほか、前年の第 3 四半期に、子会社の川本産業㈱においてＭ＆Ａに伴う負ののれん発生益の計上があった反動減がありました。



11 ページをご覧ください。続きまして、アグリ＆フーズです。

売上収益は 1,250 億円で 90 億円の増収、営業利益は 67 億円で 15 億円の大幅な増益となりました。

フーズ事業は、ハム・デリカ分野において、総菜商品が大手コンビニエンスストアで新規採用されるなどの動きが順調に進みました

が、スイーツ分野において、第 1 四半期を中心に発生した鶏卵不足による販売減少の影響が残り、前年同期をわずかに下回りました。

飲料の受託製造を行うナチュラルフーズ事業は、得意としております野菜・果実系を中心とした紙パック飲料や大口顧客向けのペットボトル飲料などの受託製造が拡大したことに加え、工場の動力エネルギーのコストが低下したことも寄与し、好調に推移しました。

アグリ事業は、青果小売分野において、全国的に客足が回復したことに加え、関西を中心に事業展開している農産物直売所の新規出店効果もあり、順調に推移しました。また、当第 3 四半期より福岡県で青果仲卸事業を行う丸進青果㈱を新規連結しており、その効果も寄与しました。

2023年度　第3四半期業績

その他　売上収益・営業利益

地球の恵みを、社会の望みに。 エア・ウォーター

(単位：億円)	22年度 3Q累計	23年度 3Q累計	増減	前年同期比
売上収益	1,481	**1,595**	+114	107.7%
営業利益	36	**81**	+45	223.4%
営業利益率	2.5%	**5.1%**	+2.6pt	−

主な増減要因

売上収益　+114億円

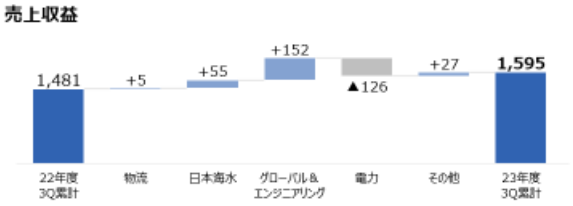
【+】
- 北米・高出力ＵＰＳ分野の業績が順調に推移
- 北米分野におけるPhoenix社の新規連結効果
- 業務用塩の価格改定

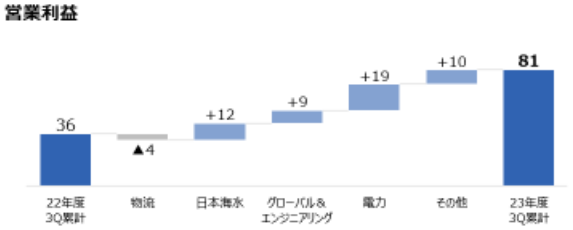
【−】
- 防府発電所運営子会社の連結除外による業績剥落

営業利益　+45億円

【+】
- 北米・高出力ＵＰＳ分野の業績が順調に推移
- 北米分野におけるPhoenix社の新規連結効果
- 電力事業におけるコスト影響からの回復
- 業務用塩の価格是正

ユニット別増減　(単位：億円)





© AIR WATER INC. | 12

12 ページをご覧ください。その他事業です。

売上収益は 1,595 億円で 114 億円の増収、営業利益は 81 億円で 45 億円の大幅増益となりました。

まず、物流事業につきましては、前年同期に好調だった感染性医療廃棄物の取扱量が減少したほか、新たに建設した低温物流センターが本格稼働するまでのコスト影響などがありました。

㈱日本海水につきましては、石炭価格の上昇に対応するため、前年度から取り組んできました業務用塩や水酸化マグネシウムの価格改定効果が大きく発現したほか、同社が行う電力事業において、赤穂バイオマス発電所で使用する発電燃料の海上輸送コストが低下したこと、また、2023 年 8 月から福岡県で新たに苅田バイオマス発電所が稼働を開始したことで、順調に推移しました。

グローバル＆エンジニアリング事業につきましては、152 億円の増収、9 億円の増益となりました。

補足資料

主要グループ会社／グローバル&エンジニアリング 分野別 売上収益

地球の恵みを、社会の望みに。 エアウォータ

（単位：億円）

会社名／事業名	セグメント	22年度 3Q累計	23年度 3Q累計	増減	
				金額	率
エア・ウォーター・マテリアル㈱	デジタル&インダストリー（エレクトロニクス）	360	**372**	+11	103.1%
エア・ウォーター・パフォーマンスケミカル㈱	デジタル&インダストリー（機能材料）	249	**241**	▲8	96.9%
タテホ化学工業㈱	デジタル&インダストリー（機能材料）	70	**67**	▲3	96.0%
川本産業㈱	ヘルス&セーフティー（コンシューマーヘルス）	231	**223**	▲8	96.5%
エア・ウォーター・リアライズ㈱※1	ヘルス&セーフティー（コンシューマーヘルス）	171	**179**	+8	104.9%
ゴールドパック㈱	アグリ&フーズ（ナチュラルフーズ）	386	**416**	+30	107.7%
エア・ウォーター小名浜バイオマス電力㈱	その他の事業（電力）	96	**99**	+2	102.3%
インド産業ガス分野※2	その他の事業（グローバル&エンジニアリング）	138	**150**	+12	108.5%
北米産業ガス分野※2	その他の事業（グローバル&エンジニアリング）	119	**205**	+87	172.8%
高出力ＵＰＳ分野※2	その他の事業（グローバル&エンジニアリング）	122	**199**	+77	163.5%

※1 2023年4月1日付で会社名を「エア・ウォーターゾル㈱」から「エア・ウォーター・リアライズ㈱」に変更
2023年10月1日付で「旧ミサワ医科工業㈱」と統合したため、23年度3Q累計の数値は同社業績(10－12月)を含む
※2 各グループ会社の単純合算

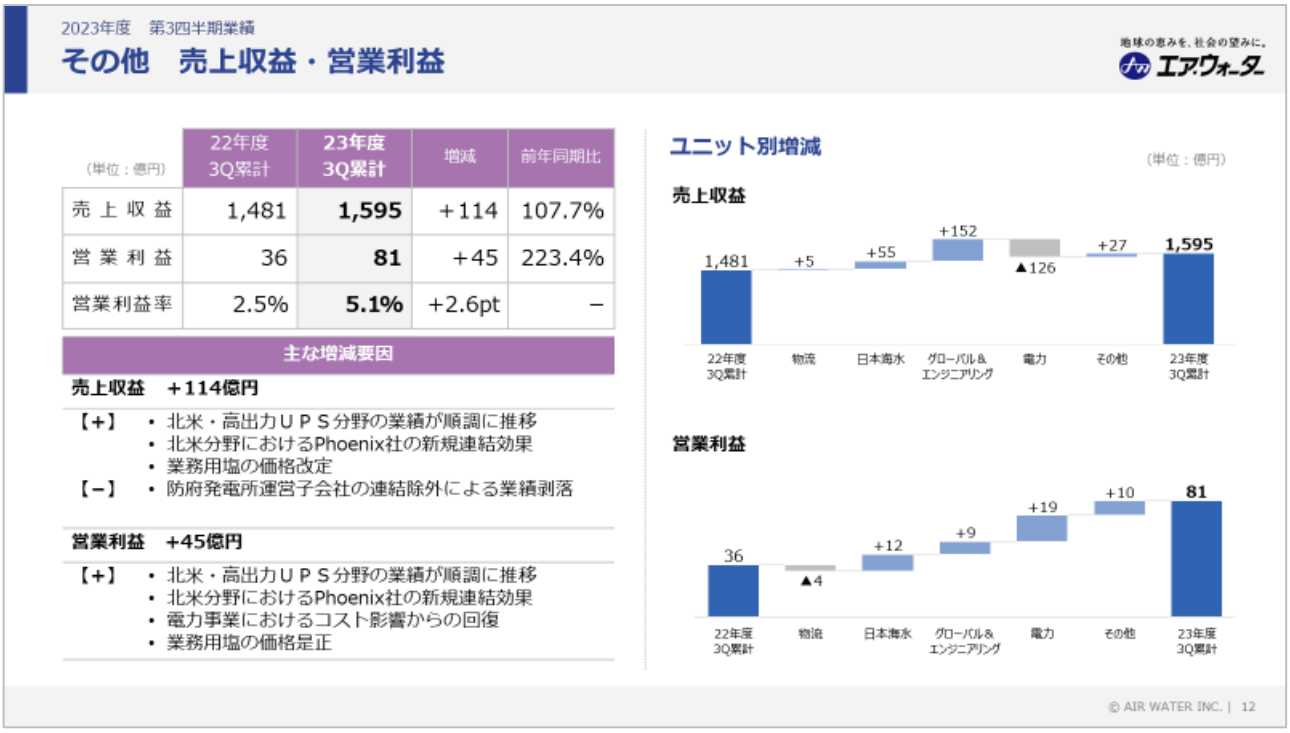
© AIR WATER INC. | 26

こちらの事業については、その中の各事業分野の売上収益につきまして、資料 26 ページの下段に記載しておりますので、そちらをご覧ください。

インドでの産業ガス分野は、鉄鋼向けオンサイトガス供給およびローリー・シリンダーによる外販ガス供給ともに旺盛な需要が継続し、堅調に推移しました。

北米での産業ガス分野は、脱炭素関連投資の拡大を背景に、液化水素タンクや炭酸ガス関連機器の販売が順調に拡大したことに加え、ニューヨーク州およびアリゾナ州における産業ガスの販売も順調に推移しました。
なお、2023 年 9 月 28 日付でＭ＆Ａを実行したヘリウム供給事業を行うアメリカン・ガス・プロダクツ社の新規連結効果は、第 4 四半期より発現する見込みです。こちらは第 3 四半期分の業績も含めて第 4 四半期から取り込む形になります。

高出力ＵＰＳ（無停電電源装置）分野は、顧客の投資計画延期や工事遅延などの解消が進んだことに加え、東南アジアを中心に大型データセンターの新規プロジェクト案件を受注したことで好調に推移しました。



資料の 12 ページに戻ります。

電力事業です。
売上収益の減少については、前年度に防府発電所の運営子会社を切り離したことに伴う業績剥落によるものです。
営業利益については、小名浜発電所の安定稼働が継続するとともに、発電燃料であるＰＫＳや木質チップの海上輸送コストが低下したことに加え、荷揚げ港湾施設における滞船期間の緩和策も進展したことから、収益が大きく改善しました。

その他の事業の増収・増益については、主に、北九州を地盤に建設工事を行う子会社の業績や、持分法適用会社であるＫ＆Ｏエナジーの増益が寄与したことによるものです。

以上をもちまして、各事業セグメントの業績の特徴の説明を終わります。

2023年度　第3四半期業績

連結財政状態計算書

地球の恵みを、社会の望みに。 エアウォータ

（単位：億円）

	23年3月末	23年12月末	増減 金額	増減 率
流動資産	4,311	**4,444**	+133	103.1%
非流動資産	6,605	**7,481**	+876	113.3%
資産合計	10,916	**11,925**	+1,009	109.2%
流動負債	2,997	**3,017**	+20	100.7%
非流動負債	3,455	**4,118**	+664	119.2%
負債合計	6,452	**7,135**	+684	110.6%
資本合計	4,465	**4,790**	+325	107.3%
負債・資本合計	10,916	**11,925**	+1,009	109.2%
親会社の所有者に帰属する持分	4,302	**4,602**		
有利子負債	3,902	**4,528**		
親会社所有者帰属持分比率	39.4%	**38.6%**		
ネットD/Eレシオ ※	0.75	**0.85**		

※「ネット有利子負債」÷「親会社の所有者に帰属する持分」

© AIR WATER INC. | 13

続きまして、資料１３ページの財政状態計算書です。

資産合計は、㈱日本海水の福岡・苅田発電所や、大手半導体工場向けのオンサイトガス供給プラントをはじめとする設備投資や北米でのＭ＆Ａなどによって、前年度末に比べて 1,009 億円増加しました。

負債合計は、こうした投資資金の一部を社債発行などの有利子負債で調達していることから前年度末に比べて、684 億円増加しました。

資本合計につきましては、親会社所有者帰属利益の積み上げにより、325 億円の増加となりました。

2023年度　第3四半期業績

キャッシュ・フローの状況

地球の恵みを、社会の望みに。 エアウォータ

（単位：億円）

	22年度 3Q累計	23年度 3Q累計	増減
営業キャッシュ・フロー（①）	360	**494**	＋134
投資キャッシュ・フロー（②）	▲546	**▲822**	▲276
財務キャッシュ・フロー（③）	252	**283**	＋31
キャッシュ･フロー合計（①+②+③）	66	**▲45**	▲111
現金及び現金同等物の四半期末残高	672	**629**	▲43
フリーキャッシュ・フロー（①＋②）	▲186	**▲328**	▲142

© AIR WATER INC.| 14

14 ページをご覧ください。キャッシュ・フローの状況です。

営業キャッシュ・フローは、利益の拡大により 494 億円となりました。
投資キャッシュ・フローは、設備投資、M & A 投資を実施したことなどから、マイナス 822 億円となりました。
その結果、フリー・キャッシュ・フローは、マイナス 328 億円となりました。
また、財務キャッシュ・フローは、300 億円の社債発行を行ったことなどで、283 億円となりました。
以上の結果、現金および現金同等物の四半期末残高は、629 億円となりました。

2023年度　通期業績予想

2023年度 通期業績予想

地球の恵みを、社会の望みに、エアウォータ

※2023年5月10日に公表した業績予想から変更はありません。

（単位：億円）	2022年度（実績）	2023年度（予想）	増減 金額	増減 率
売上収益	10,049	**10,800**	+751	107.5%
営業利益	622	**720**	+98	115.8%
税引前利益	610	**700**	+90	114.8%
親会社の所有者に帰属する当期利益	401	**440**	+39	109.6%
有利子負債	3,902	**4,428**	+526	113.5%
親会社の所有者に帰属する持分	4,302	**4,780**	+477	111.1%
資産合計	10,916	**12,299**	+1,383	112.7%
営業利益率	6.2%	**6.7%**		
ＲＯＥ ※1	9.7%	**9.7%**		
基本的１株当たり当期利益	176.84円	**193.12円**		
親会社所有者帰属持分比率	39.4%	**38.9%**		
ネットＤ/Ｅレシオ※2	0.75	**0.80**		

※1 「親会社の所有者に帰属する当期利益」 ÷ 「親会社の所有者に帰属する持分（期首・期末の平均）」
※2 「ネット有利子負債」 ÷ 「親会社の所有者に帰属する持分」

© AIR WATER INC. | 16

2023年度　通期業績予想

セグメント別 通期業績予想

地球の恵みを、社会の望みに、エアウォータ

※当第1四半期にセグメント区分の変更を行ったため、前年度実績の数値も変更しています。

（単位：億円）		2022年度（実績）	2023年度（予想）	増減 金額	増減 率
デジタル＆インダストリー	売上収益	3,380	**3,630**	+250	107.4%
	営業利益	261	**332**	+71	127.1%
エネルギーソリューション	売上収益	692	**700**	+8	101.1%
	営業利益	43	**46**	+3	108.0%
ヘルス＆セーフティー	売上収益	2,360	**2,450**	+90	103.8%
	営業利益	155	**170**	+15	109.8%
アグリ＆フーズ	売上収益	1,528	**1,730**	+202	113.2%
	営業利益	55	**72**	+17	130.5%
その他（物流・日本海水・グローバル＆エンジニアリング・電力・その他）	売上収益	2,089	**2,290**	+201	109.6%
	営業利益	51	**114**	+62	221.0%
（調整額）	営業利益	57	**▲14**	▲70	－
合　計	売上収益	10,049	**10,800**	+751	107.5%
	営業利益	622	**720**	+98	115.8%

© AIR WATER INC. | 17

16 ページに、通期の全体業績予想、17 ページに、セグメント別の通期業績予想を記載しております。
第 2 四半期から、さらに第 3 四半期にかけて、業績が大幅に拡大していることなどを踏まえ、こちらは、以前に公表した数値から変更ありません。

これをもちまして、当社の第 3 四半期決算の概要説明を終了させていただきます。

以　上